

建 通 新 聞

岐大SIP実装プロジェクト

判定精度など課題を報告

岐阜大学SIP実装プロジェクト(研究責任者



六郷恵哲岐阜大学工学部特任教授)は2月27日、各務原市内で第6回報告会を行った。各務原大橋のロボットを活用した事前調査について、業務の効率化などの成果と、機械の判定精度やデータ管理などの今後の課題が報告された。

開会に当たり六郷特任教授は「新技術活用に向けて活動を始めてから2年半ほどが経過し六郷教授がこれまでの活動の経緯などを説明した

た。岐阜大学だけではこれだけ大きなプロジェクトとならなかった。ここからのインフラの整備をより良くしようという考えの元、これまで協力してくれた方々に感謝したい」と謝辞を述べた。

報告会ではドローンなどのロボット技術を活用した事前調査結果について大日コンサルタント(岐阜市)の矢島賢治氏らが報告した後、従来の近接目視や打音調査を担当したユニオン(岐阜市)

の薄部美幸氏がその利点や改善点を述べた。点検箇所が絞り込まれていることから工期の短縮が可能だった一方で、クモの巣などもひび割れとして検出してしまうことなどが今後の課題として挙げられた。また、機械から得られる膨大なデータをどう取捨選択して活用するかも今後の検討課題とされた。

この他、ロボット技術を活用した橋梁点検の指針や今後の展望などが話された。